

観光社会資本の事例

テーマ	古い温泉の情緒を残した中に新しい文化の香る街づくり
【施設の状況写真】	
	
<p>伊東大川は松川と呼ばれ、川沿いに温泉旅館が建ち並び、湯の町伊東の代表的な景観を作り出してきた</p>	<p>市内中心部や伊東大川の河畔を散策するコースが整備され、コース周辺には様々なモニュメントや公園が配置されています(伊東温泉プロムナード)</p>
【施設の利用写真】	
	
<p>団体レース(タライを紐で結んで4人1組のチームで競われるレース)</p>	
【観光資源としての利用状況】	
<p>伊東大川(松川)は、伊豆半島を代表する温泉地のひとつである「伊東温泉」の中心部を流れており、その周辺には昭和3年に温泉宿として開業した東海館に代表される昔ながらの旅館などが立ち並ぶ温泉旅館街はもとより、イタリアのリエティ市との姉妹都市記念などの様々なモニュメントや木下杢太郎記念館が点在し、伊東駅を起点とする松川・なぎさ公園などをめぐる散策コースも整備されています。</p> <p>伊東大川の護岸には自然石が使われ、住民や観光客に安らぎを与える河川空間の創出がなされています。護岸の一部は親水区域としての利用が図られており、まちを訪れた観光客の散策ルートとして賑わいをみせています。</p>	

テーマ	古い温泉の情緒を残した中に新しい文化の香る街づくり
【社会資本の基礎データ】 ○名称 二級河川伊東大川 ○所在地 伊東市桜木町 ○事業名 河川海岸環境整備事業 ○事業主体 静岡県 ○事業期間 平成10年～平成12年	
【社会資本の役割・効果】 伊東大川周辺では、昭和33年狩野川台風時に大きな洪水被害が発生したが、河道整備により現況流下能力が向上したほか、上流の奥野ダムの整備により河道内の流量の調整を行うことができるようになり、平成16年に伊豆半島を中心に大雨をもたらした台風22号の出水においても、伊東大川周辺では浸水被害の報告がされませんでした。 近年では治水対策に併せて、温泉街周辺での親水護岸の整備を進めており、地域と一体となった河川整備を進めております。	
【位置図】 詳細位置図	
【関連ホームページ】	

